

## 教師の熱心さ

### 1. 教育を考える一言

「教師の仕事への熱心さは、教育という仕事への愛からきているのだろうか、学生への責任感からきているのだろうか」

### 2. 背景

私は筑波大学大学院修士課程教科教育専攻体育教育コースで、「中国の学校体育教育の授業改善に関する研究」という研究課題に取り込み、将来、中国内モンゴル自治区の大学教員となることを目指しています。

筑波大学保健体育教育コースから指導教員の先生を捜しているとき、2011年5月27日に、三木ひろみ先生との素晴らしい出会いにより、保健体育コースを受験することになりました。三木先生は、元気でやさしい先生という印象でした。

私は日本に来てもう4年目になりますが、日本語のコミュニケーション能力、日本語で研究論文や文章の読み取り、また、それをまとめる能力はまだまだ充分ではありませんでした。しかし、体育教育コースの先生方のご厚意で、正式な大学院生になる前に体育教育の共同ゼミに参加させていただき、体育教育関係の研究に触れることができ、大変うれしい気持ちと感動の連続でした。特に、2012年2月の大学院受験の3ヶ月前から、三木先生はお忙しい中毎週一回特別指導の時間を持って下さり、『新版体育科教育学入門』購読が始まりました。まず私が各章の要旨をまとめ、わからない内容は先生が説明してくださりました。ある問題に対して議論しながら中国と日本の体育教育の共通点や相違点を比較分析することで、研究の面白さを実感することができました。三木先生は、私の指導時間を確保するために食事をとる時間も削り、お腹の鳴る音がはっきりと聞こえた時でも、元気に優しい声で教えてくださいました。私の心の中で尊敬、感謝、感動のいろいろな気持ちが重なり合いました。そして、教師の教育や研究への熱心さはどこから来ているのだろうか、という疑問が頭の中に浮かんだのです。教育という仕事への愛なのか、学生への責任感なのか、さまざまな答えを考え続けました。今は、三木先生のおかげで、私も保健体育教育コースの大学院生の一人になりました。自分の将来の夢のためにも、三木先生への恩返しのためにも、どんな困難があっても頑張りたいと思います。

### 3. 考察

教師の仕事への熱心さはどこから来ているのだろうかと問い続けながら、研究者として、また一人の人間として成長し、三木先生のような体育教育の教員になりたいと思います。

#### 参考文献

高橋健夫、岡出美則、友添秀則、岩田靖、中井隆司編著『新版体育科教育学入門』大修館書店、2010年、pp.244-256